

HOT TOPICS 03

高萩市公式ホームページ リニューアル!

問合せ 秘書広報課 広報グループ ☎23-7320

4月から、高萩市公式ホームページのデザインをリニューアルしました。

新しいホームページの特長は、以下のとおりです。

- 目的の記事を探しやすい構成にするとともに、スライドバナーを設け、市役所から特にお伝えしたい情報をわかりやすくしました。
- ツイッターやFacebookを取り入れ、これらのソーシャルメディアを利用している人が新着情報を即時に入手できるようにしました。



リニューアル後のトップ画面

HOT TOPICS 04

人事交流の状況 市から派遣している職員

問合せ 総務課 人材育成グループ ☎23-2119

高萩市では、他団体の経営感覚や業務の内容等を修得することにより、幅広い視野と新たな発想に立った行政施策を展開する職員を育成するため、以下の団体等と相互の人事交流及び職員の派遣を行っています。

人事交流



茨城県中小企業課
渡邊 慎



日立保健所
山縣 博司



高萩市社会福祉協議会
水戸 友美

実務研修



高萩工事事務所
小野 真史



茨城県市町村課
阿部 雅史



グリーンふるさと振興機構
前田 直

民間企業派遣研修



(株)電通
廣木 孝彦

派遣



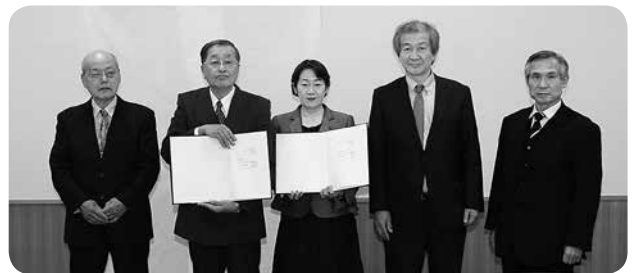
茨城県後期高齢者医療広域連合
氏家 大樹

HOT TOPICS 01

災害時のLPガス供給で 県高圧ガス保安協会日立地方支部 高萩部会と協定締結

問合せ 危機対策課 危機対策グループ ☎23-2215

高萩市は3月25日、県高圧ガス保安協会日立地方支部高萩部会(会員15社、村田純一部会長)と「災害時支援協力に関する協定」を締結しました。大規模災害発生時に、避難者への炊き出しなどのため、同部会からLPガスやコンロなどの必要機材を供給していただく内容です。総合福祉センターで行われた締結式には、同部会役員や小田木真代市長、市役所関係者が出席。小田木市長は「3年前の東日本大震災では、約5000人の避難者がガス供給でお世話になりました。今回の協定は、とても心強く市民の安心に繋がります」とあいさつ。村田部会長は「LPガスは災害に強い燃料。以前より社会貢献したいと考えており、本日の協定締結をうれしく思います。高萩市民のために協力したい」と話しました。

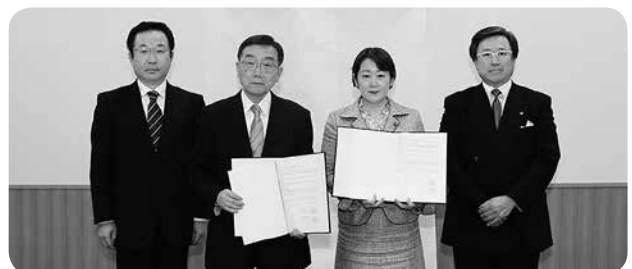


HOT TOPICS 02

災害時の歯科医療救護 について歯科医師会と 協定

問合せ 危機対策課 危機対策グループ ☎23-2215

高萩市歯科医師会と高萩市は3月26日、「災害時の歯科医療救護に関する協定」を結び、総合福祉センターで若松健一会長と小田木真代市長が協定書に調印しました。この協定は、災害時に歯科に関わる医療を被災者に提供するための手続きや派遣方法を決めておくことで、迅速な対応を目指すものです。同会は市内の15の歯科医院で組織され、災害時には、歯科医療救護チーム、口腔ケアチーム、個人識別(身元確認)チームを編成し、避難場所や救護所などで医療救護活動を実施していただく内容です。



就將館
だより 40

島根県の竹島資料室に展示中の

『日本図』と『改製(日本)扶桑分里図』の複製図

昨年の八月一日に、島根県が「竹島問題研究会」の資料調査により、茨城県高萩市で、竹島を初めて記したと考えられる長久保赤水自筆の日本地図二点を新たに確認した」と報道発表した。

◎地図の表題及び作成年代

・『日本図』：一七六〇年代(大)

きさ：六六・〇×六六・六cm)

・『改製(日本)扶桑分里図』：

一七六八年(明和五年)(大)

きさ：八四・六×一三四・八cm)

◎地図作成者：長久保赤水

この島根県の報道発表を受けて、

マスコミ各社や共同通信社、時事通信社なども西日本を中心に、このニュースの配信をはじめた。

同日付の産経新聞大阪本社版の夕刊の第一面には、「竹島」江戸中期日本地図に、「一七世紀半ばに領有権」補強の見出しの文字が躍っている。

さらに、「江戸時代中期(一七六〇年代)」に作成された、竹島を最初に記したとみられる日本地図二点が確認されたことが一日、分かった。調査した島根県が特定した。二

点は、竹島が記された最も古いとされる日本地図『改正日本輿地路程全図』(一七七九年初版)の約一〇年

前に作られ、同全図のもとになったとみられる。文献資料などをもとに『遅くとも一七世紀半ばには竹島の領有権を確立した』とする日本政府の主張を補強する材料となりそうだ』との記事が大きく紹介されていた。さらに、雑誌『歴史人』(全国誌)一〇月号のスクープ欄でも、この二点の地図が取り上げられた。

▼竹島資料室に展示中の『日本図』及び『改製(日本)扶桑分里図』の複製図



【長久保赤氏所蔵資料の複製図】

生涯現役

いきいき元気



大崎 宥一さん(春日町)

“好きな事を続けられる喜び”

「写真通りでは面白くない。創作を加えられるから絵は楽しい」そう嬉しそうに話してくれたのは、1日の半分をアトリエで過ごし絵を描いているという画家の大崎宥一さん。高校の美術部で初めてデッサンを習い、大学で教員免許を取得。中高で美術の授業を受け持ちながら、出展作品を制作するなど画家としての活動を続けてきました。

イタリアの建造物が好きだという大崎さん。今でも題材探しのため海外へ旅に出かけ、スケッチや写真を撮ってきます。「現地できか感じる事ができない歴史や文化が創作意欲をかき立てますね」油絵が専門でしたが、表現の幅を広げ制作効率の良いアクリル絵の具に10年程前から切り替えました。油絵より色に深みを出すのが難しく今でも苦労しているそうです。アトリエには、畳2畳分程ある100×130号の絵画が並んでいます。今年は、ひたちなか市のギャラリーサザで7年ぶりに個展を開きます。期間は5月6日から12日までです。「好きな事を続けられることは幸せなこと。それが元気の秘訣です。」

防災コーナー
津波監視カメラが完成しました

■問合せ 危機対策課 ☎23-2215



▲高萩中学校屋上に設置した津波監視カメラ

津波監視カメラが3月25日に完成し、運用を開始しました。カメラは、水平方向に360度、垂直方向に90度動き、夜間でも月明かり程度の明るさで人の顔を判別できるため、夜間災害にも対応できます。市街地全体を見渡せる高萩高等学校と海に近い高萩中学校屋上に設置しており、市役所と消防本部

にあるパソコンを使って遠隔操作を行います。災害時には、津波の規模や浸水状況等を確認し、危険と判断すれば早期に避難指示等が行えるようになります。



▲市役所の遠隔操作室